



校章の由来

県立三中を意味した三つの剣を組み合わせ、初代大屋校長の考えで剛健・真剣・勤儉の三けん、更に智・仁・勇の三徳を兼ねた象徴として用いられて来た

厚高同窓会報

第42号

平成20年7月5日発行

旧制中学卒業者 3,915名
新制高校卒業者 23,777名
合 計 27,692名

発行
神奈川県立厚木高等学校同窓会

編集
厚木高等学校同窓会広報委員会
TEL 046(221)4078
FAX 046(222)8243
http://www.atsukou-dousou.org/



平成19年度厚木中学・厚木高校同窓会総会（平成19年6月30日）より

世代を超えた強い絆

厚木高等学校同窓会々々長

小澤 澄男

(高三回)



各地区支部の総会や各種イベントに参加させていただき、会員の皆さんとの会話がはずむ中で、同窓会や同窓会に対する感慨を深めて参りましたが、私はこのことで「世代を超えた強い絆」を見てとることができました。

伊勢原支部の総会では、同地区からの新入生が紹介されましたが、新入生の決意表明に対し、六〇七十歳も上の先輩から励ましのことばと、やりとりがありました。それは聞いている皆が共に和やかな気持ちになってしまふ、えも言われぬ温かい光景でした。

校歌祭では在校生と同窓生とが一緒に校歌を歌いましたが、老・壮・青それぞれの発声のみごとな「世代ハーモニー」を奏でておりました。

また各支部では女性の会員が役員に選ばれる傾向が強まっている、と感じます。かつて中国の革命時に「女性は天の半分を支える」と云われておりましたが、わが国も同様であり、同窓会もその延長上にある、と考えます。

同じ学窓に学び、そして巣立った——このことで結ばれる同窓(会)——唯一異なるのは年令と、その時々の時代背景のみなのです。

こんなに永い世代にわたる人達が「同窓」と言う一つの絆で結び合う会や団体は、他に例が少ない、と思います。

歴史を刻めば刻むほど同窓の年代は広がりますし、長寿社会を迎えたこれからは、さらにそれが増幅されます。

異なる時代背景により価値感微妙に変化しますが、心を一つにして世代間で支え合う同窓会になればいいな、と思います。

本部活動報告

年会費500万円超える

読みやすくなった会報

十八年度の同窓会総会で承認され、十九年度から徴収を始めた年会費につきましては、極めて順調に推移し、年度末締めで合計五百万円を大きく超えました。

各支部とクラブOB会名簿により三千余名の同窓会員にお願いした結果、予想を超えた、この額となり、皆様の温かい誠意をひしひしと感じている次第です。

これが確かな裏付けとなり、さつそく「母校教育振興基金」より支出し、母校の体育館(目前で運営屋根等の修復・塗装工事を行うこと)ができるようになりました。

二十年度の年会費につきましては、中学卒全会員と高校十八期卒までの会員を加え、合計六千余名の方々に「納入お願い」の文書を差し上げました。ご協力よろしくお願ひ致します。

こうして年会費徴収が順調に進みますと、母校施設等の整備・充実、部活動援助等も計画的に推進することができそうです。

また同窓会も二十四支部総計二万数千人の会員を数えるまでになり、活動を支える連絡、事務処理、会議開催等、事務局に専任従事者を置く必要に迫られており、人件費が発生します。活動を広げれば、経費もかかります。

ことほど左様に年会費は、同窓会を支えるベースシツクなものであることをご理解いただきたい、と思ひます。

四月に広報委員会が発足し、委員皆さんのご努力により、同窓会々報が見違えるようにすばらしくなりました。

B5版からA4版に大型化して読みやすく、ページ毎に本部報告、学校情報、支部会便りとニュースの整理がされ、ハコものも適当に配置され、偶々から偶々まで「読みたい、楽しい紙面」が展開されています。

校歌祭と同窓林下草刈りには、多くの会員が参加。連帯感を深め、そして汗を流していただきました。

平成20年度の主な行事予定		
20年	4.13	創立106周年開校記念日
	4.20	津久井支部会総会
	5. 6	第8回 地引き綱会
	5.10	伊勢原戸陵会総会
	5.18	大和戸陵会総会
	6.21	愛川戸陵会総会
	6.21	海老名戸陵会総会
	7. 5	平成20年度同窓会総会 及び懇親会(厚木商工会議所)
	7.27	厚木連合戸陵会総会
	9.20	相模原両青会総会
	10.11	第3回 青春かながわ校歌祭 (横須賀芸術劇場)
10月中旬		同窓林下刈り
	11月	秦野戸陵会総会
	11月	座間戸陵会総会
21年	2月	津久井支部会総会
	3月	第61回 卒業式
	3月	御所見戸陵会総会
	3月下旬	同窓林下刈り

地引き綱大会は、天候にも恵まれ、海の底から「幸せ」を引っ張り込

故・河田 浩さんのご遺族 同窓会へ一千万円の寄付

昭和十八年三月に旧制中学校を卒業された故・河田浩さんの遺志で、河田さんの妹である澄江さんから、厚木高校同窓会へ一千万円の寄付がありました。そのま

母校支援基金として寄付をしました。

澄江さんから、「大変お世話になった厚木高校で部活動等に役立ててほしい」というお話でした。寄付金を使って、六つの部活動の機材や備品、図書室や校内の自習室の備品購入に役立てました。

部活動は、吹奏楽部・演劇部・軽音楽部・生物部・写真部・茶華道部の六つの部です。各活動とも部員一同喜んでおり、今後の活動の発展を期待しています。

生徒の喜びの声を、「厚高新聞」記事より一部を紹介します。

○演劇部
スピーカー、音響ミキサー、高性能のデッキを購入させてもらって、練習の時も本番の舞台と同じような音響の中で演じることができるようになりました。また

んだように、にぎやかで楽しい一日を過ごすことができました。

梯も購入して、自主公演等の準備が安全かつスムーズにできるようになりました。活動の幅も広がって、非常に感謝しています。

○軽音楽部(MPA)
軽音楽部は設立したばかりの部活で機材が少なかつたため、今回アンプ等を購入することができて非常に助かりました。これから、学校内でライブを行なうとき等に使用させていただきます。

○写真部
新しいカメラをいただき、活動の幅が広がってとても嬉しいです。ありがとうございます。感謝の気持ちでいっぱいです。

○茶華道部
立礼台と作法室の畳替えをさせてもらいました。文化祭のお茶会です。作作家の戸を開けると畳の香りがします。畳を替えただけで作法室の中も明るくなりました。これから文化祭に向けて一生懸命、稽古しようと改めて思いました。

は辻村夏穂さんです。

この賞は本校卒業生である、故・茅誠司氏の文化勲章受賞を記念して設けられたもので、学業・人物ともに優れた生徒に贈られる。

厚高での三年間は主に部活動に力を入れてきたという辻村さんは、女子硬式テニス部の副部長を務め、また生徒会活動でも書記として活躍した。



学校情報 茅賞に辻村さん

母校六十期の卒業式が三月一日に行われ、今年で四十



支えに素直に感謝、 充実の二年間

前教師 難波淳一(高十八回)

私は、本年三月定年退職いたしました。教員生活の最後の二年間を、母校厚木高校で過ごせたことは大変幸せであったと思っております。赴任当初、厚高現状について外からあれこれ言える立場から、全身で受け止める立場へ身を置くことへの恐れがありました。

堀校長の御意向の下、厚高改革の推進役を務めたわけですが、新入生合宿オリエンテーション等それぞれの取り組みでは、私流に推進してしまつた部分も多かつた。

校長先生には、留意点の指摘、指示のみで黙認していただく場面が多く感謝しております。多くの教員の協力をいただき、少しでも形として実施できたことに感謝し過ぎることはありません。

母校で培った熱き思い

鈴野 康 一(高二十五回)

厚木高校に赴任して七年間、微力ながら「文武両道」を考え、学向上だけでなく生徒が生徒会活動や部活動にも真剣に臨み、色々な方面で成果を出せるようにと考え努力してきました。私にどれほどのことが出来たのかわかりませんが、生徒たちは先輩たちの築き上げた伝統を汚すことなく多方面で活躍できたのではないかと考えております。

同窓会支部の総会におじやまし母校への熱き思いにふれ、勇気をいただき、改革の方向性に自身と確信を持つことができました。

生徒達には厚高生の気概を表すと思われる「我より古いにしえ」を作(なす)という言葉を書き続けました。前教師山田和彦先生も生徒に呼びかけられておられ、共通の感慨におられたことを心強く思っております。

正に、応援してきた吹奏楽部、ダンスドリル部が、目の前で全国大会の活躍、優勝の快挙を成し遂げたことは心からうれしかった。

母校での教員生活には不安と緊張もありましたが、よき先輩と後輩に助けられ、二度も卒業生を送り出すことが出来たことに感謝しております。四月からは厚木高校で培われた熱き思いを内に秘め、足柄高校の生徒を指導していきたいと考えております。

末筆ながら、ますますの母校の発展と皆様方のご多幸を心からお祈り申し上げます。

支部会・同期会だより

〔荻野戸陵会〕

霊験あらたかな「地蔵尊」

「おうおう、お前、今年大山へどうでえ、行かねえか」で始まる古典落語でもおなじみの大山詣り。下山後には江ノ島に寄り、神奈川



日本三休子合地蔵尊

等で精進落とし付きの一週間ほどのコースが一般的であったようだ。大山の先導師で宿坊もされていた恩師の故増田源之進先生が、「江戸時代だったら忙しくてとも教師などしている暇はなかったはずだ」と言っておられたの思い出す。

江戸からのコースの内、北回りの街道の宿場町として栄えたのが荻野新宿で、筆者の同期生の難波武平家の越後屋、難波恭平生家（兄は洋平氏）のかざりや等の屋号がずらりと並び、越後屋は今も当分の旅籠の佇まいで、樺の尺柱一枚板の戸袋等、どっしりと往時を偲ばせている。

その新宿の近くの子合に、大山

と同様に関東一円の信仰を集め、股賑を極めた「日本三休子合地蔵尊」がある。八幡太郎源義家の六男源（毛利）義隆の法要を一族の毛利主計が勤進し、安置した。本尊は行基作と伝えられ、八月十六日に年に一度のご開帳となる。荻野戸陵会の内田徳孝前会長の自宅はこの地蔵尊の門前にあるため、堂の前との屋号になっている。霊験あらたかなご利益は子宝、安産、子育て等、今でもそれを伝え聞く参拝者も多い。ご利益を願う御仁は、是非一度参拝してみても如何か。荻野戸陵会のメンバーはそのご利益か、気のせいかわ、何れも如何にも健やかに成長してきたと思われる節がある。

何れにしてもそういう育ちの面々の集まりの荻野戸陵会であり、年間行事にしてもしごく和やかに行なわれていることは言うまでもない。

毛利 昇(高十六回)

〔愛川戸陵会〕

山田前厚木高校教頭が講演

六月二十一日、総会が初めて中津地区八管山「川正旅館」で開催された。会員も愛川町中心に幅広



中津地区で開催された愛川戸陵会総会

く友好、親睦を深めていくことが期待される。

講演は、愛川高校校長の山田和彦氏(高二十四回)前厚木高校教頭。演題は「地元愛川高校の教育の現状」。

めまぐるしく変化する現代社会では、誰もが自由に知識や情報を得られるが、勉学、人間関係、社会の中の位置付け、複雑な又不安な気持ちを心の隅に抱きながら頑張ろうとしている生徒、それをいかに支えようと日々苦悩されている先生方。山田校長のことばの中にハット心被打たれる場面がありました。

改めて教育の大切さに感銘を受け盛大に終わりました。

(追記)

三月二十九日は、同窓林の「下刈り」。今日は天気がいい。いとも

〔大和戸陵会〕

新役員に大いに期待

五月十八日、大和戸陵会総会において、三期九年に亘り会長を務められた、座間茂俊(高二回)会長以下の役員を改選する事が承認された。

◆ ◆ ◆

新役員は次のとおり(敬称略)

会長 高橋武彦(高八回)新
副会長 青木誠治(高八回)新
山口祐徳(高十三回)留
天岸寿昭(高二十一回)新

会計 小山祐子(高三十二回)留
長田靖子(高三十三回)新
曾我博光(高三回)新
福泉 卓(高三回)新
事務局長 鈴木克則(高二十七回)新

なお、座間会長、大口・山崎会計

監査、樋田事務局長は顧問に就任。広報委員は福泉が留任となった。広報委員、福泉 卓(高三回)



たつてもいられなく「億い出の杜」にやってきた。私にとって久しぶりである。(枝垂れ桂)が待っていた。

大貫勇先生がやってきた。ご無沙汰しています。間もなく、各支部から青年の若々しい笑顔が集まってきた。周りは比較的きれいに刈られている。さてどうするか？皆それぞれ道具で手入れが始まり、きれいになりました。同窓を語った思い出がまたひとつ残りました。

大貫邦重(高十六回)

昭和三十九年卒(十六期生)の齋藤十内と申します。卒業以来早や四十四年が経ち、いつまでも若いつもりで自分でしたが、気がつけば還暦はすでに過去のものとなつてしまいました。厚高一年の二期に私学から編入した私にとつて、坊主頭の下駄履きという出で立ちで、本厚木駅から田んぼの畦道を三十分かけて通う毎日、カルチャーショックの反面、新鮮であり、あそこが旧三中から脈々と受け継がれてきた質実剛健の伝統なのかと実感した次第です。

終戦の年に生まれた我々の世代は、所得倍増政策、東京オリンピックに象徴される脱戦後のさわさわした時代に生きると同時に、



社員全員で 福知山線事故救援に 齋藤 十内(高十六回)

六十年安保の騒然とした社会の暗部を中学生の時に感じ、高校時代にはケネディーが暗殺されるというショックな事件もあ

つたせいか、どこか社会に背中を向けようとする精神構造の二面性を持ち合わせていたと記憶しています。そんなことが教室の雰

も関西勤務などを含め転勤が多かったため同窓会とは縁遠い状況でしたが、元気な地元同期生のお陰で、最近皆さんと顔を会わ

雰囲気にも影響し、進学指導の先生を大いに嘆かせてしまったようです。大学を卒業後は住友重機械に入社。四国・新居浜が長く、その後

す機会が増えてきたことは嬉しい限りです。

幸いまだ健康で日本スピンドルという上場会社の経営を担当して二〇〇五年四月二十五日に起きたJR福知山線列車脱線事故では、全社員で救援に当たったことで全国的に有名になりました。日本の地盤沈下が懸念されていますが、もの作りの現場を支えて、まだまだ頑張っていこうと思っ

ています。

〔相模原両青会〕

第19回総会で新市長が講演に

相模原市は昨年三月津久井四町と合併し、同五月の市民若葉まつりには特別企画「新相模原市合併記念」と題し、市役所前のテントで前年参加した同窓生に呼びかけ、母校からお借りした幟旗を立て、「母校・厚木」の存在をアピールし、同窓生三十名余が集い青葉の下で楽しい交流をしました。

同窓生の岡部誠氏(高九回現相模原市みどりの協会理事長)等が改良した「照手のハナモモ」を私たちが八年前から会をつくり、花とみどりに感謝し苗木の植樹等の活動をしています。



第19回総会での加山俊夫相模原市長

昨年第十九回相模原両青会総会は九月二十二日、相模原市民会館で開催し、来賓として母校から小沢同窓会長、堀校長、志村

本年は9月20日に開催

先生がご出席され、出席者六十八名と有意義に行われました。特に本部の年会費徴収向上を図る意味もあり、十四年振りに当日会費を値下げしたものでした。

総会後、相模原市長加山俊夫氏を迎え、人口七十万市民の将来構想「政令指定都市に向けて」の講演資料を交えて説明いただきました。

尚本部役員に当支部からは大井理恵子・星博美さん(高十八回)が承認され、今後若手OBの増員を図れるものと期待します。

本年は支部創立第二十回同窓会となり、来る九月二十日、市民会館にて四時開会が決定しています。講師には米寿を迎えた藤崎源太郎会長(中三十一回)にお願いし、陸軍士官学校が昭和十二年に開校するまでは、母校は県下一との誇りであったと述べられています。

在校中柔道の創始者、嘉納治五郎先生が来校し模範演技を見たり、グライダーでの体験を生かし、航空隊に入隊した戦争体験等を通じての「貴重な人生談」を期待しております。

当支部も若手の新幹事三名を加え、相模原両青会の生みの親故小川勇夫先輩(高一回)達の母校への熱き思いを忘れることなく、各回総勢三十名の役員で更に同窓の輪を広げ、魅力ある支部を目指し取り組んでいます。

安藤 和次郎(高9回)

〔高17回同期会〕

6年振りの同期会に104名参加

還暦が過ぎた高十七回の同期会が二月十六日、ロジワールホテル厚木に百四名が参加し、賑やかにかつ盛大に開催されました。

当日は、難波春美先生、小島菊代先生、飛鳥田義先生、高橋武彦先生の各恩師(六人の恩師全員も同窓生というのは、水い歴史の中



盛会だった第17回生同窓会(ロジワールホテル厚木)

でこの時だけ」と百名(全体の三分の一)の同期の仲間の参加があり、遠くは、北は仙台市、南は山口県からも駆け付けてくれるなど、六年毎(四回目)の再会に会場は終始和やかな雰囲気包まれていました。

卒業以来、初めて参加した人や、久しぶりの人などとの楽しい交流の輪があたりこちらで出来、旧友とのふれあいを深めると共に、思い出話に花を咲かせていました。

閉会の際には、団長だった高橋廣幸君(元福岡ダイエーホークス球団社長)などの応援団OBによるエールで「校歌斉唱」も行われ、昔のように右手を高く突き上げる者、肩を組みながら歌う者など、すっかり当時の「厚高生」に戻り、大きな声を張り上げるなど懐かしみながら、次回は、四年後の学校創立百十周年の年に再会を約束して、散会しました。

なお、散会後は、まだ話足りない半数以上の者が二次会、三次会と繰り出し、厚木の商業の振興に寄与したのは言うまでもありません。

足立 一彦(高十七回)

母校人事異動

平成二十年三月末日付けで教頭の難波淳一先生(高十八回)が定年退職され、四月一日付けで数学科の鈴野康二先生(高二十五回)が足柄高校へ転動となりました。

両先生には、長年にわたり、同窓会の各種活動に大変ご尽力をいただきました。この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

新たに、厚木児童相談所より坂本先生、厚木東高校より吉垣先生をお迎えし、総勢十二名で校内の庶務を担当して参ります。よろしくお願いたします。

- ・久貝 直(高二十回・英語)
- ・志村祐一(高二十四回・数学)
- ・山重裕次(高二十八回・英語)
- ・霧島士郎(高二十八回・国語)
- ・須藤福治(高二十九回・数学)
- ・小牧住子(高二十九回・英語)
- ・中田鉄也(高二十九回・音楽)
- ・内田憲夫(高三十回・理科)
- ・渡辺 卓(高三十一回・社会)
- ・坂本修一(高三十三回・国語)
- ・松岡洋明(高三十七回・数学)
- ・吉垣 武(高三十九回・数学)

第3回校歌祭に参加しよう!!

10月11日・横須賀芸術劇場

昨年秋開催された第二回「青春かながわ校歌祭」は県立高校二十五校の同窓会が、現役の生徒と共に参加し大成功を収めた。

わが戸陵会も、軽音楽部の三十数名の生徒を合わせて百余名の大合唱団を編成し、揃いの「校章入りネクタイとエンジの鉢巻き」も鮮やかに「戸室の丘辺…」を歌

い上げた。応援団のリードも決まり、マスコミの反応も大好評であった。

《第三回青春かながわ校歌祭》は、この秋十月十一日(土)に横須賀芸術劇場で開催される。大勢のご参加をお待ちいたします。

〈申し込み先〉 学校内、志村先生